



心配は研修後の生活

ケア開国 インドネシア介護士

日本とインドネシアとの経済連携協定(EPA)に基づき今年8月、インドネシア人の看護師・介護福祉士候補205人が来日し全国6カ所での約半年間の日本語研修を受けている。一方、日本語研修を免除され8月末に来日した3人のうち2人は横浜市内の特別養護老人ホームで働き始めた。看護・介護分野で初めての外国人労働者の本格的な受け入れ。奮闘する候補者たちを訪ねた。

【有田浩子、写真も】

横浜市金沢区の海外技術者研修協会横浜研修センター。介護福祉士候補45人が日本語の習熟度別に5クラスに分かれて研修している。

授業中は日本語しか使ってはいけない。「パーティーに来られますか?」。講師の堀野弘子さんが日本語で問いかけると、「ちょっとすみません。友達と用

イスラム教徒の女性がかぶる「シルバブ」というスカーフ姿の候補者も目立つ。横浜市金沢区の海外技術者研修協会横浜研修センターで10月

事がありますので……」「来られません」と明るい声が返ってくる。誤りを正そうと、

「外国人職員1人」施設も

堀野さんがごろ合いを見計らって「行けません」と言うと、「行けません」と全員が復唱した。

介護福祉士候補は来

年1月末まで、看護師候補は2月初めまで研修が続き、858時間のうち約8割の675時間が日本語習得に充てられる。授業は月曜から土曜日まで、ほぼ毎日テストがある。日常会話を学んだ後は介護現場で使われる「褥瘡(床ずれ)」といった専門用語も学ぶ。ひらがなやカタカナも習っているが、こちらは会話以上に個人差が大きい。

とはいえ候補者たちの心配はもっぱら研修後の生活だ。現在ではセンター内の宿泊施設で共同生活をしているが、介護現場に行けばインドネシア人の仲間が1人が大半で、外国人は自分1人という介護施設も13ある。現在、センターにはインドネシア語を話せるスタッフが週1回訪れて相談を受けているが、「(自分が働く)田舎ってどういうところ?」「スーパーストアはあるのか?」と聞かれる。働く環境や仕事をうま

環境、言葉……不安

約2年10カ月働いた経験もあり、施設で働くことへの不安は少ない。「インドネシアでは湯船に入る習慣はないが、新しい経験として入浴介助をせひやりたい」と語る。

夫と1歳の子どもがいる。看護師資格を持つ夫は来年、EPAで来日する予定だ。「できれば一緒に働きたい」と話す。

日本への出発前研修で調査した安里和晃・京都大学大学院准教授に

働きやすい制度整備必要

インドネシア人の看護師・介護福祉士候補者を受け入れる施設・病院は100。日本側のあっせん機関である国際厚生事業団は各病院・施設に実務経験を積んだ研修責任者を置くことを求めている。また、候補者の来日直後にインドネシア人の価値観などを知ってもらうため「人材マネジメント手引き」を配布。就労後は週1回程度の電話相談を開設するほか年2回程度、施設や病院を訪問する予定だ。しかし、安里氏は「施設任せにせず、事業団など公的機関が音頭をとり、候補者が働きやすいような制度整備やマネジメント体制の構築に力を注ぐべきだ」と話す。特に最初の1年は候補者のストレスも大きいためカウンセラーや通訳の派遣などサポート体制を充実させるべきだと指摘する。ある受け入れ施設では「介護の勉強のための翻訳本が必要」と話す。

大本襲撃
出口すみとその時代
早瀬圭一
昭和十年。大正の弾圧につき、再び国家権力が大本教団に襲いかかる。拷問死、自殺も相次いだ未曾有の弾圧は何故起きたのか!!

早瀬圭一
早瀬圭一
早瀬圭一
早瀬圭一

3刷

定価1680円(税別)

毎日新聞社

マンツーマンで職員がつくのは今月まで。「早く独り立ちできるようにレベルアップしたい」と口をそろえる。2人にとって最も大きなハードルは3年後の介護福祉士の国家試験だ。